

くらしとバイオプラザ21

Life & Bio News

あなたのくらしに、バイオの情報をお届けします。

2002 Vol.
ニュースレター
No.1

1

特集 NPO法人 「くらしとバイオプラザ21」の 発足記念号

【目次】

発足の目的

代表のあいさつ	1
副代表のあいさつ	2
応援団からのメッセージ	
歌田勝弘	2
柳澤桂子	3
迫田朋子	3
イラスト作家の自己紹介	
宮嶋浩子	4
活動	
真山武志	4
メンバー紹介	4
ホームページの立ち上げ	5
ロゴマークの意味	5
応援団のプロフィール	5



バイオを知ろう。バイオを話そう。 バイオについて考えてみませんか。

NPO法人「くらしとバイオプラザ21」は、

バイオテクノロジーに関する正確な情報提供を行う機関として設立されました。

医療、食料、環境など、広い分野で展開されるバイオテクノロジーは貴重な社会の財産です。

あなたがバイオに関してもっと詳しく知りたくなったときや疑問・問題を感じたとき、

くらしとバイオプラザ21までお気軽にお問い合わせください。

扉も窓もいつも開いております。

ホームページも開きました(アドレスは<http://www.life-bio.or.jp>です)。

バイオのいろいろな情報を充実させて掲載していますので、ぜひ一度ご覧ください。

何でも結構ですのでご質問・ご意見など、どしどしお寄せください。

(2002年5月30日、東京都からの承認を取得し、7月1日設立登記終了と同時に、正式にNPO法人としてスタートしました。)

「生きていく」「生きる」



太田隆久代表

私は現在、研究・教育の場から退いた隠居の身で、仕事をせずに、様々なことに思いをめぐらして日を送っています。

中学・高校時代、友人の影響もあり、部活動では科学部生物班に属して、採集旅行にも出かけました。コレクション趣味のない私は友人達と違って、採集・分類にはあまり熱心でなく、採集や実験で多くの生物に接することにより、生物の多様性と、卵、種子から成体に至る分化・成長との生物の不思議さにすっかり魅せられたのです。「生きていく」とはどういうことなのだろうか。それが、その後の私の道を決めたのでした。大学に入ってから人並みに文学、哲学、思想書に読みふける多感な青春も送りましたが、結局、生物学科に進学し、「生きていく」ことの基盤は何かということを追いかけていってしまいました。

生きものの中で起きているのは化学変化であることは確かです。そこで、大学では、この化学反応を取り仕切っている

酵素とは何か、その実体であるタンパク質の立体構造が化学反応をどう司っているのか、タンパク質の設計図である遺伝子がこのタンパク質の構造と機能とにどうかかわっているのかと、「生きていく」ことを分子レベルまで追求してきました。

これらの研究を通じて得たことは細菌、ウイルスからヒトに至るまで、遺伝暗号、分子構造は共通であるという事実です。生体を構成する各種の分子が元となり、それらが複雑に相互作用することにより、個体の代謝、分化、成長が生まれ、個体間の相互作用である生態系にまで至る素晴らしい「生きていく」世界を築いていること、その中でヒトも他の生物と同様、生きもの的一种にしか過ぎず、ヒトとして特別な存在ではないということがわかります。

それと同時に、文学、芸術、思想に親しむと、理性・知性・感性といった人間の優れた特性に触れ、人間として「生きていく」ことを実感します。しかし、これらを人間だけがもつ特長と考える人間至上主義は、これらに関連する障害者を差別する考えの根源ともなるのではないのでしょうか。また、環境の問題も、長寿など健康の問題もヒトが動物の一種として他の生きものと共にあるということから考えなくてはなりません。

分子レベルから生態系まで「生きていく」ことを考えながら長年研究を行ってきた者として、再び、文学、芸術、哲学などに親しむ昨今、ヒトも全ての生きものの一つに過ぎないという基本的な認識に立ちつつ、ヒトの人間としてのあるべき姿を考えてゆきたいと思っています。



大島美恵子副代表

私は、定年を迎えた3年前までは、基礎医学研究者として国立国際医療センター研究所で脂質代謝（脂質生物化学）の研究をしておりました。研究のなかで「科学者の責任」について考え続けてきたことが、現在大学で進めている「公益学」という学問につながり、また「くらしとバイオプラザ21」から声をかけていただくきっかけになったように思います。急速に進んでいる生命科学を正しく理解しながら、真にひとのためになる科学を推進するにはどうしたらよいかを日々考えています。

さて、そんなわけで酒田市に新しく開学した東北公益文科大学に赴任し、昨年4月から山形県民になりました。山形県は殆ど戦災を受けていないため、古い文化や珍しい風習がたくさん残っています。私は東京生まれの湘南育ちですから、東北に住むのは初めての経験で、生活様式、習慣、言葉の違いから食材、料理方法まで、毎日何かしら新しい発見をしながら生活しています。地元の方々とはすこし違う視点で、東京と比較しながら山形県のよいところ悪いところを観察しています。

それでこちらに住んでみて、東京とは違うなと感じるのは、買ってくるありふれた野菜や果物が美味しいことです。東京のスーパーマーケットにはあらゆる食材が並んでいて、見た目には同じように見えるのですが、食べてみるとこちらの物は味が全く違うのです。山形県内でも庄内地方という日本海に面した地域のため、日本海でとれる魚の殆どの種類がありますし、地元庄内平野でとれる庄内米や野菜や果物は、地味が豊かなせいでしょうか、味が濃いというか、東京や湘南地方で出回っているものとは比べものになりません。今は大好きな山菜がたくさんお店に出ていて、山菜採りにゆかなくても家で食べられます。私は料理することが大好きなので、珍しい食材をいろいろと試してみても楽しんでいます。食いしんぼうの私は地元の食材の豊かさにすっかり魅せられてしまったようです。

美味しいものを食べたい皆さん、どうぞ庄内地方にいらしてください。新しい味の発見があり、ありふれた野菜や果物が美味しいのにびっくりされるでしょう。それに、鳥海山や最上川の美しい自然とともに、庄内地方には各市町村のすべてに温泉が湧いていますので、自然探索と温泉好きの方々にはこれもまた楽しいかと思えます。

生い立ち、経験、感じたこと、なぞなど

応援団 コーナー

「くらしとバイオプラザ21」発起人
日本バイオ産業人会議世話人代表 歌田 勝弘

私ども日本のバイオ関係の産業人が待ち望んでいた「くらしとバイオプラザ21」が漸く（ようやく）任意団体からNPO法人として出発できるようになったことを心からお祝いしたいと思います。

21世紀の日本の社会、経済環境は、世界的なグローバル化、情報化は勿論（もちろん）のことですが、日本固有の問題として少子高齢化、高学歴化、低資源、高コスト、それに成熟化現象が各方面に影響を与えることは不可避の条件です。

経済面では国際的な市場競争はいよいよ激化し、産業構造が知的価値創造構造へと転換せざるを得なくなっています。所謂科学技術創造立国でなければわが国の発展は期待できないと言ってよいでしょう。

人々の生活面での望みは、より一層健康、安全、安心や、環境への関心が強くなっています。クオリティオブライフの向上期待が強くなることは必至です。

私たちはこのような2つの面から見て「21世紀は生命科学の世紀である。」とアメリカのクリントン前大統領が述べたことは尤もと思います。バイオテクノロジーは、新しい産業を起こし、雇傭（こよう）面にプラスになると同時に人類の生活を健康で豊かにする科学技術と言えます。

然し新しい科学技術は一般の社会の人達に理解をってもらうことはなかなか困難だということは、世界の歴史が示しています。バイオテクノロジーについても、多くの一般市民が不安や疑問を持っています。特にバイオは人間の生命、健康に直接影響するものだけに、一層不安の除去につとめ、理解信頼を得なければ、基礎研究や産業化の進展は困難だと考えられます。

私たちバイオ関連産業人は、この問題を他人まかせではなく、自ら汗と資力を出して、市民に理解を求める組織をつくり、学者、研究者や、評論家、マスメディア、市民の代表者、それに行政と手を組んで努力することに致しました。

この市民の理解、支援を戴くためには、産業界の視点ではなく、市民の視点にたって努力しようと思っております。

現在は、多様性の時代と言われています。我々は市民との対話から、いろいろな情報を戴き、我々も学ばせて戴きたいと願っています。

この組織はまだ小さな組織ですが、追々大きくなることを願っています。どうぞ皆様のお力添えをお願い致します。

最初に、私がくらしとバイオプラザ21という名前を聞いた時は、企業がバイオインダストリーを盛んにするのに都合のよいような情報を宣伝するところかと思いました。

けれども、よくうかがってみると、まったく反対で、私たちが地球の上で、未永く幸せに暮らしていくにはどうすればよいかということを皆で考える会だということがわかったのです。

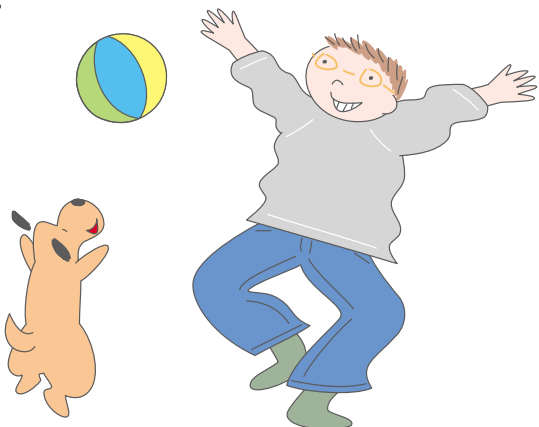
そのために必要な情報は企業も積極的に提供してくれます。人類の幸せのために、どうすればよいかということを考える機会を私たち一人ひとりにあたえてくれるというのです。このような組織こそ、今、私たちが必要としているものであると確信しました。

科学が進んでくると、科学技術を使って、お金を儲けることができます。しかし、その目的にだけ向かって突き進んだら、人間は、地球はどうなるのでしょうか。

そのようなことを会社の利益に優先させて考える企業が出てきたのです。それを利用して、私たち一般人がどこまで科学を理解し、科学技術について自分なりの意見がもてるようになるかどうか、今、私たちの資質が問われているのです。

このような組織のあることを世間一般の人々に知ってもらい、科学や科学技術についていろいろな立場から話し合ってもらいたいと思います。科学を科学者に任せておいてよい時代はもう終わりました。それほど科学は大きな影響を私たちにあたえるようになったのです。「科学について知らない」ではすまされない時がやってきました。

政治に無関心であってはならないように、私たちは科学についても無関心であってはなりません。科学技術を使うかどうかについて、住民投票がおこなわれるというようなことが、将来、増えていくかもしれません。その時、私たちは、自分の意見を持って、投票に臨むべきでしょう。



生命科学関連の情報を伝える仕事にかかわってきて、多くのひとにわかりやすく伝えることがいかに難しいか、身にしみて感じてきました。そういう意味で「市民とのコミュニケーションと科学的でわかりやすい情報発信」という目標は、もっとも困難で重要な課題への挑戦であると、私はとらえています。私自身、ドキュメンタリーという手法だったり、CGを使ってみたり、インターネットで討論するという方式の番組を制作したりと、様々な模索をしましたが、まだ自分のなかでこれといったものをつかめていません。

昨年、アメリカの生命倫理事情を取材したのですが、その際、生命科学について市民と対話する下地が日本とはまったく異なることをあらためて認識させられました。

たとえば、アメリカには、ヘースティングスセンターという生命倫理に関する非営利の第三者機関が30年前から設立されており、世界各国から研究者が集まり、隔月にだされるヘースティングスレポートは、つねに新しい視点もりこまれた質の高い専門誌となっています。しかも運営は、基本的には寄付で成り立っているのです。MIT（マサチューセッツ工科大学）のホワイトヘッド研究所の高校生対象のプログラムにも参加させてもらったのですが、最先端の生命科学を実際の研究現場でわかりやすく興味深く説明したり、エイズワクチンの話のときに実際にHIV感染者とともにパネルディスカッションを開くなど、さまざまな面からの工夫と配慮がなされていました。このプログラムでは、ボストン近郊のバイオ企業を訪ねる機会もあり、そこで働く研究者の自信たっぷりの姿が妙に印象に残ったりしました。いずれにしろ、高校生たちが自分の今後を考えたり、あるいは生命科学に親しむとてもよい場になっていました。

そういう意味で「くらしとバイオプラザ21」に期待するところはとても大きいのです。今は、専門家に対する不信が国民のあいだに広まっています。BSEの対応しかり、薬害エイズも、ハンセン病も、です。専門家のひとたちがその道のプロとしておかしいものはおかしいといい、科学的見地からきちんと発言しているのか、疑問です。もし、市民にバイオテクノロジーについて啓蒙したい、と考えているのだったら成功しません。

よく医療の現場でインフォームドコンセントの重要性を主張していた医師自身が、患者となって初めて気付くことがたくさんある、と聞きます。市民が何を望んでいるのか、何を知りたいのか、何に不安をもっているのか、対話には、聴く「耳」が大切です。「バイオテクノロジーに対する理解を深めるための開かれた対話機関」として、市民に、きちんと中立的機関として認知されるかが成功の鍵だと思っています。

イラスト作家の自己紹介

宮嶋 浩子

「朝定食と私」

私は朝定食が好きだ。

ほかほかの白御飯とお味噌汁、紅鮭、玉子、のり、おつけもの。納豆はあってもなくてもいい。別に単品だけでも好物ばかりなのだが、セットになるとなお嬉しく幸せだ。死ぬ前に何かひとつだけ食することができるとしたら何が良いか？と聞かれたら、「朝定食」と答えるだろう。

こんなふうに思うようになったのは、家をでてひとりで暮らしはじめてからだ。家で生活のように母親が作ってくれたものを食べる、という楽ちんな生活ができなくなって、改めてありがたさが身にしみたわけだ。

ならば今は自分で作っているかという、そんなことは全くなくて、たまに旅先の宿で食べるか、牛丼屋で食べるくらい。朝食はパンで手早くすませることが多い。

そもそも今の私の生活が朝定食に合わないのだ。家で絵をかく仕事でなおかつ夜型なので、朝御飯はお昼頃になる。(お昼時に朝定食は似合わない)そして狭いマンションの部屋は、仕事が詰まってくると乱雑に散らかっていく。(朝定食は片付いた部屋が台所の食卓が似合う)あと、もし作るならばなんとなく、1人ではなく2人もしくは複数のために用意して、一緒に食事をしたいという気持ちもあるのだ。

表紙に描いた朝御飯の図は記憶と想像の産物であり、現実の私とは遠いものだ。さらに花の水やりも何年もしていないし、犬は飼ったこともない。普通の人の日常生活の1シーンを描いたつもりが、今の自分とは全く関係ないなんてすごい。

こういう1人サイズの生活も楽しいけれど、また状況が変化すると、朝御飯を食べる生活にかわっていくのだろうか。今は憧れの朝定食なのだ。

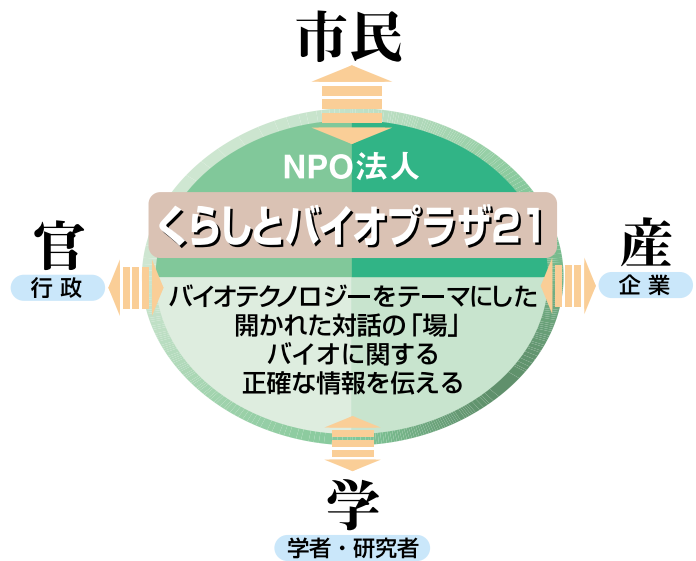


活動

真山武志 専務理事

急速に進歩する自然科学技術により市民生活は一昔前と比較にならないくらい豊かになって来ています。しかし、食の問題、生命倫理の問題、さらには環境の問題など正確に理解し、話合うことが、益々必要となって来ています。このような時、設立にあたっての目標「バイオテクノロジーに関する情報を科学的に、中立性を保って、やさしく発信すると同時に市民とコミュニケーションを図る」を基本に活動を進めて行く考えです。市民の皆様のご意見をよく聞き、教えてもらいながらバイオテクノロジーに対する理解を深めて行きたいと考えます。

平成14年は任意団体からNPO法人へと基礎固めの時期です。ホームページ・ニュースレター・コミュニケーションネットワーク等の構築に注力し、市民の皆様の信頼を得るよう活動します。



メンバー紹介

太田隆久代表 東京大学 農学部名誉教授
ホームページをはじめとしてあらゆるジャンルに造詣が深い。特にバイオはお手の物でくわしい。(あたりまえかも)

大島美恵子副代表 東北公益文科大学副学長
公益学とは「人間がよりよく生きてゆくために必ずしも利益利潤を生むとは限らない行動や思想について総合的に研究する学問」と解く。

真山武志 明治製菓常勤顧問
体重は50キロそこそこ細いが、頑固さだけは誰にも負けない。外向きの交渉が大好きで人間が大好きなやさしい行動派。

日比谷 眞 味の素(株)から出向。
生粋の江戸っ子でバリバリのヨットマン。とってもグルメ…。

依田次平 バイオインダストリー協会と兼務。
バイオとの付き合いも長く、いろんな意味で頼りになる。

橋爪和子 協和発酵(株)から出向中。
八丁堀界隈の下町風情を楽しみながら歩き回っている。

佐々義子 バイオインダストリー協会から出向。
5・6年依田氏とバイオの仕事に従事。

横山広志 広島県庁からバイオの勉強のためバイオインダストリー協会へ派遣中。農業に新風を希望する万年青年!

ホームページの立ち上げ

くらしとバイオプラザ21のご紹介とバイオ関連の話題を集めたホームページを開きました。最近のむずかしいバイオから、みそ・醤油などの身近なバイオまでバラエティのある内容を取り上げ、わかりやすい内容のホームページを作成しました。有意義に活用してどしどしご意見をお寄せください。

ホームページアドレス: <http://www.life-bio.or.jp>



Life & Bio plaza 21

【ロゴマークの意味】

地球上の人の輪の中に共存するくらしとバイオ21(Life Bio)輪の中から三つ葉のクローバーの芽が吹く。花言葉は「堅実」、キリストの三位一体を表す。

応援団コーナーにメッセージをいただいた方々のプロフィール

歌田勝弘【うただ・かつひろ】 東京大学法学部卒、味の素株式会社入社。社長、名誉会長を経て、現在同社相談役。経団連副会長等を歴任、日本バイオ産業人会議世話人代表を兼務。

柳澤桂子【やなぎさわ・けいこ】 御茶ノ水女子大学卒、コロンビア大学大学院修了。現在生命学者、サイエンスライターとして、著作活動中。著書に「卵が私になるまで」「ヒトゲノムとあなた」他多数。

迫田朋子【さこた・ともこ】 東京大学医学部保健学科卒、日本放送協会入局、アナウンス室を経て、現在解説委員(医療・保健・福祉・市民活動)。「おはよう広場」「おはようジャーナル」等担当し、NHKスペシャル「脳死」「脳死移植」等でリポーター兼司会として活躍。

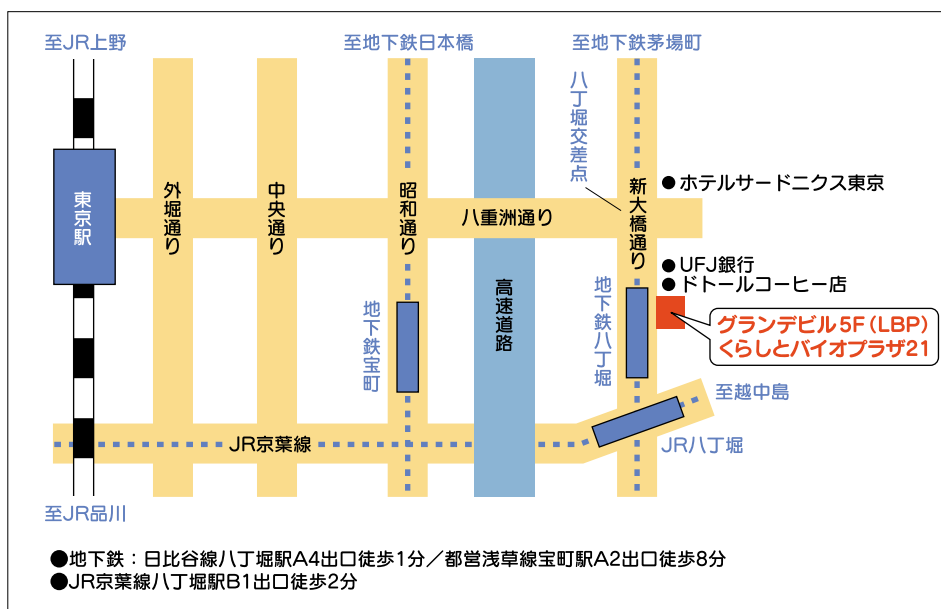
宮嶋浩子【みやじま・ひろこ】 東京工芸繊維大学卒。グラフィックデザイナーを経てイラストレーターとして独立。雑誌、広告等でイラストレーターとして活躍中。キャスターイラスト&コピーコンテスト 97 準グランプリ受賞。

入会のお問い合わせ

バイオについて少しずつ知りたい方、またはご意見をお持ちの方は協会員(個人)に入りませんか? ニュースレターをお送りします。ごいっしょに活動してみませんか!

TEL 03-5541-2790 FAX 03-5542-5143

入会に関しては年会費、正会員一口 10万円、協会員一口 2,000円となります。詳しくは上記お問い合わせ先までご連絡ください。



 **くらしとバイオプラザ21**

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-26-9 グランドホテル5F

TEL: 03-5541-2790 FAX: 03-5542-5143

ホームページアドレス: <http://www.life-bio.or.jp>